

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0473100527		
法人名	有限会社konno		
事業所名	グループホームたんぽぽ	ユニット名	A棟
所在地	宮城県遠田郡美里町北浦米谷73-3		
自己評価作成日	令和 2年 8月 17日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 2年 9月 10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な雰囲気の中で、その人らしく、お1人お1人の意思、生活リズムを大切にしながら、共に助け合い、共同生活をしています。特に、カウンターキッチンで3食手作りされた出来立ての食事は大変美味しいと皆さんに喜んでいただいております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>JR小牛田駅から車で10分程度国道108号線沿いにある。周辺を水田に囲まれ近隣に幼稚園や小中高校、スーパーなどがある。町内会に加入し地域の行事に参加したり、小学校のコンサートに毎年招待を受けている。ホームの目標「利用者様とともに笑顔のある毎を送ります」等掲げ、入居者が食事の下拵えや片付けなど本人がしたいことを支援している。職員は穏やかな声がけやケアに努め、安心して笑顔で暮らせるよう支援している。入居者の足形に顔を書いて掲示したり、ミニ運動会を行っている。目標達成計画の「来所しやすい環境をつくる。スタッフが確保でき余裕を持ち仕事ができる」は継続する。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームたんぽぽ)「ユニット名 A棟」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各棟で目標を作り、各棟内に貼り意識の共有をしています。	「利用者様とともに笑顔の毎日を過ごします」などの目標は年度初めに全職員で作っている。「昼寝をしたくない」「外で過ごしたい」など無理強いせず、一人ひとりに合わせたケアに努め笑顔をつないでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの季節行事にボランティアの方々にご参加頂き、交流を深めています。	町内会に加入し地域の避難訓練等に参加している。散歩の際に近所の庭の花を見に行ったり、農家から野菜の差し入れがある。今年4月以降、新型コロナの影響で、ボランティアの来訪は中止している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学校等の行政の要望に合わせて施設訪問を受け入れしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にご利用者様、職員が参加し、現状報告、参加者様方々より意見を頂き、QOL向上に努めています。	地域包括職員、行政区長、民児委員、家族代表、入居者代表の構成で、偶数月に開催している。4月以降は町の助言で会議を開かず、各委員に入居者の状況や行事などの資料を届けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議時や必要に応じ、現状を伝え、指導、助言を頂いております。	地域包括職員は運営推進会議に毎回出席している。情報交換や助言を得ている。町外の入居希望者の件を相談した。町主催のグループホーム連絡会や研修会に職員が出席し交流している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関の施錠せず各棟の自由な行き来や交流できる環境づくりをしています。問題が発生した時は職員・管理者同士で会議を持ち、身体的拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束適正化委員会を3カ月に1回開催し、身体拘束防止について検討している。内部研修は身体拘束ゼロの手引きを使用して年2回行っている。今年の6月以降新型コロナの影響で委員会の開催を中断している。	新型コロナウイルス感染防止対策等に追われて大変な時期ではあるが、身体拘束適正化委員会を再開し、身体拘束防止について継続して対処していただきたい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待・拘束については研修会等に積極的に参加し、ホームの全体ミーティング等で職員に周知しています。	3カ月に1回身体拘束適正化委員会で虐待について話し合っている。全体ミーティングで虐待について勉強するなど、風通しの良い職場、職員同士の声がけに努めている。強い口調の時は周りの職員が注意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や社内研修に参加し、権利擁護や成年後見人制度について学んでおります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定等でご利用者様・ご家族様の疑問や不安な点を伺い、詳細な説明をしご納得を頂いた後、署名・捺印を頂戴しております。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会総会にてご意見等を伺い、頂いたご要望を基に検討し、ご要望を反映し、実行に移せるよう努めております。	年1回開催していた総会は今年は開催していない。家族との連絡は電話やメールなどで行っている。ホームの行事や入居者の写真等法人の便りで届けている。家族から安心してお任せしていますとの声が多い。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間で話し合いの機会を設け、意見交換を行い実行に移しています。業務日誌等を用いて職員間で情報共有しています。	月1回の全体会で意見を出し合っている。職員提案のスポーツ大会でアイデアを出し、紙玉入れやペットボトルボーリング等を楽しんだ。社長との面談で要望の多かった夜勤手当や年末年始手当が上がった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員1人1人の家族環境、体調等の状況に配慮し、シフト調整しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規入社した職員に同行、業務内容を把握していただくなどの対策を実施しております。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者開催の研修会や勉強会に参加し、交流を図りつつ、認知症への理解と対応について学んでおります。	郡内の福祉事業者や医療事業関係者、消防署を対象とした多職種連絡会に職員が出席した。被介護者を設定し、支援の内容を検討発表し、いろんな意見が聞けた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安なく過ごせるようにアセスメントをしっかり行う。本人のできることを把握し、落ち着くまで気を配り、寄り添いながら支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いやご要望に傾聴し、信頼関係を築いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	不穏なく生活できるようにケアプラン、アセスメントを基に支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	テーブル拭き、洗濯物干し、たたみを一緒にやり、コミュニケーションを図っています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院、入退院時には、ご家族様にも立ち会っていただき、ホームと共にサポートして頂いています。又、行事への参加もして頂き、互いの絆を深めています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の訪問や、自宅への外出支援を実施しています。知人の方の面会も受け入れ人に会う機会を積極的にして頂いています。	元同業者や茶道の弟子、家族の面会がある。家族と外泊や米寿の祝いで温泉へ出かける方がいた。墓参りに職員が同行している。スーパーの買い物など外出行事はコロナ禍で、今は出来ていない。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様のそれぞれの心身状態を常に見極め座席を代えたり、レクリエーションや歌を唄い一緒に過ごす時間を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に入所されたご利用者様について必要な情報・相談があればその都度、ご本人・ご家族様のフォローに努めております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面会時、ケアプラン更新の際、生活の様子をご家族様に伝えご意見を伺います。ミーティングで話し合い、希望に添えるように検討し支援しています。	日常の会話で昔食べた「さっぽろ一番味噌ラーメン」が食べたいことを聞き、みんなでラーメンパーティをした。意思把握困難な方がクリームパンを見ると笑顔がすごく良いので食べたいことを知り皆で食べた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	毎日の状況をケアマネに報告し、スタッフ全員が情報を得てミーティングや申し送りにて状況を把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の記録や申し送り等をミーティングで把握しその都度対応しています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	グループホームの全体会議、毎日のミニカンファレンスにてそれぞれの意見を出し合い、介護計画作成に反映しています。	気づきや状態を記録や毎月の全体会での意見や担当者の意見を聞き、6か月ごとにモニタリングし計画を見直している。退院後の座位の確保が難しくなった入居者の、車いす対応を計画書に入れた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の様子を記録し、ミニミーティングにて情報を共有したり、検討しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の電話対応や家に帰りたい等の申し出がある時は自宅周辺をドライブしたり、臨機応変に対応しています。ご家族様からの外出等にも対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1度の絵手紙を楽しんでいます。ご本人様の描いた絵手紙を壁に飾り、季節を感じて頂けるようにしています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	任診前、主治医へ状態報告、通院時には日々の状態を相医箋に記入、指示等仰いでいます。主治医は、入所時に各ご利用者様ご家族様に決めて頂いています。変更の際はご利用者様ご本人様に確認して頂いています。	かかりつけ医への通院は家族が同行であるが、不都合の時は職員が同行している。協力医の往診が月2回有る。夜間や休日、緊急時は救急医療を利用している。搬送前に主治医の指示や看護師の意見を聞いている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	カンファレンス、ミーティングで申し送りファイルで常にナースと情報の共有しています。夜間の急変時も連絡して対応しております。ご家族様にもすぐ連絡をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、管理者・ケアマネジャーが同行し、担当医・看護師と面談しております。診療情報を共有し、適切な支援が出来るようにしています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、ご意向を伺っております。状態変化に伴い、その都度ご家族様と話し合い等でご意見に添えるように支援しています。	入居時に「医療連携体制及びターミナル(看取り)に関する同意書」を説明し同意を得ている。状態の変化に際し医師、家族、ホームで話し合いを持っている。看取りの体制はあるが家族は入院を希望する方が多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生についてはスタッフ全員で確認して、再発防止に努めています。また、応急手当については消防署員による研修を行っています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年様々な想定で防災訓練を実施しています。マニュアル確認と地域との連携もその都度確認し、実施しています。	年2回夜間想定避難訓練を実施している。災害マニュアルを作成し、災害に対応できるよう訓練している。昨年の台風19号では指定避難所へ全員避難した。近所の住民が誘導・見守りをしてくれた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様、1人1人の人格を尊重し、気持ちに配慮した声掛けや対応をしております。話し方でも、命令的な声掛けにならないよう努めています。	呼び方はさん付けだが、○○ちゃんと呼ぶ方もいる。入居者の思いを尊重している。衣類が汚染した時は本人のプライドに気を付けて声掛けに注意し失礼の無いようにしている。排泄の際は「トイレ」の言葉は避けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、いくつかの選択肢を用意して、ご利用者様自身が選択できるように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各ご利用者様のペースに合わせた生活が出来るように、その日の体調・気分をきちんと把握し支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理髪の支援サービスを2ヶ月に1度行って、気持ちよく過ごして頂いています。服装もご本人様と相談して選んで着ていただいています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	四季折々の野菜・魚等を取り入れ、バランスの良い手作りの調理を提供しています。行事に合わせたメニューは、ご利用者様と話し、工夫して、楽しい食事にはしています。	食材は近隣の商店が届けている。何が食べたいか入居者に聞いて、お好み焼きやピザなどを提供している。敬老会には刺身が出され、誕生日にはプリンやクリームソーダが好まれる。食前に口腔体操をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様の健康を考慮し、塩分控えめ、栄養のある食事を提供しています。脱水・熱中症にならないように、各ご利用者様の水分摂取量を記録して支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは1人1人声掛けし行って頂いています。介助が必要な方は、スタッフが対応しています。必要に応じ、訪問歯科を利用されている方もいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の、排泄パターンを把握し、早めの誘導を心掛けています。	食前には全員に声がけしている。自分でトイレに行けない方にはパターンを把握して早めの誘導をしている。立ち上がった時動作が落ち着きが無くなった時はすぐに誘導している。夜間はパッドを利用している方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体調の観察や生活チェック表を基に腹痛になっていないか等を確認し、軽い運動をするように心掛けています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴時、衣類を脱いだりすることに羞恥心の強い方もいるので楽しい会話で穏やかに入浴できるよう心掛けています。入浴拒否等がある場合には、その方の意見を尊重し、時間や日にちをずらす工夫をしています。	3日に1回午後が入浴のペースになっている。拒否の強い方には好きな歌を歌ってもらうなど、気持ちを和らげて脱衣、入浴してもらっている。足元の弱い方に注意を払い、注意して転倒を予防している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない際には会話したり、その方に合わせた対応を心掛けています。昼寝の時間を短時間にし、散歩したり、身体を動かし眠れるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や注意事項を記入した処方箋を確認しています。薬の効能や、副作用等を把握し、正しく服用して頂いています。変更時は、誰もが分かるように申し送りしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テーブル拭きや、洗濯たたみ等、手伝っていただいております。時代劇や歌番組を録画して頂き、楽しんでもらったり、体操やゲーム等にて気分転換して頂いております。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、ホームの周辺を散歩したり、ウッドデッキにておやつを食べたりしています。施設全体で外出したり、本人の希望がある際は、自宅や買い物等にも外出しています。	コロナ禍で外出行事や四季折々の行楽は中止している。天気の良い日などはホーム周辺の水田や草花を見ながら散歩している。歩行困難な方の車いすを他の入居者が押し、職員が見守り散歩している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際、買い物をし、代金を支払って頂き、お金は一時会社負担で後日請求となります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からご利用者様へ手紙が届いた際には、それに返信するのをお手伝いさせて頂いたりしています。年末には絵手紙で年賀状を作成しだしています。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間で快適な生活を過ごして頂くよう、ホール玄関等に季節感を取り入れたり、トイレなどの表記を大きく見やすい位置に貼っています。	ホールは明るく広い。季節を感じる紅葉や柿の折り紙、十五夜の貼り絵が飾ってある。床やドアノブは消毒され空調、湿度、換気がなされている。入居者は職員の穏やかな声かけで安心した生活を送っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースに、ソファを置き、気の合う方同士談話されたり、他利用者様の居室へ遊びに行ったり、1人で居室で過ごされたり、その方に合わせたペースで過ごしていただいています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを使用して頂き、あまり生活の変化を感じないように過ごして頂けるよう心掛けています。	居室は備え付けのベッドやエアコン、クローゼットの他に使い慣れた筆筒やテレビを置いている。知人や家族の写真、ドライフラワーなどを飾っている。読書や新聞を読んだり、それぞれに過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室、お風呂等、一目で分かるように大きく見えやすい位置に貼り、見守りしながら1人で自由に行動できるようにしています。移動スペースに物を置かないようにし、転倒防止に努めています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0473100527		
法人名	有限会社konno		
事業所名	グループホームたんぽぽ	ユニット名	B棟
所在地	宮城県遠田郡美里町北浦米谷73-3		
自己評価作成日	令和 2年 8月 17日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 2年 9月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今までの生活の延長線のような温かみのある家庭的な雰囲気の中で、心理的にも大きな変化を迫られず、心身ともに安定してお過ごしいただいております。同じ顔ぶれのスタッフで一人おひとり目が届くよう少人数生き生きとお過ごしいただけるよう皆で協力し助け合いながら日々生活しております。たんぽぽが提供するサービスはすべて「自らが受けたいと思う福祉の創造」に基づき、お客様が積み上げてこられた「文化と背景」を尊重し、認知症ケアのスペシャリストが、心地よい空間と質の高い身体ケアをご提供します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR小牛田駅から車で10分程度国道108号線沿いにある。周辺を水田に囲まれ近隣に幼稚園や小中高校、スーパーなどがある。町内会に加入し地域の行事に参加したり、小学校のコンサートに毎年招待を受けている。ホームの目標「利用者様とともに笑顔のある毎を送ります」等掲げ、入居者が食事の下拵えや片付けなど本人がしたいことを支援している。職員は穏やかな声がけやケアに努め、安心して笑顔で暮らせるよう支援している。入居者の足形に顔を書いて掲示したり、ミニ運動会を行っている。目標達成計画の「来所しやすい環境をつくる。スタッフが確保でき余裕を持ち仕事ができる」は継続する。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームたんぽぽ)「ユニット名 B棟」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケア目標を立て各棟に理念と一緒に掲示し、スタッフに意識づけるようにしています。	「利用者様とともに笑顔の毎日を過ごします」などの目標は年度初めに全職員で作っている。「昼寝をしたくない」「外で過ごしたい」など無理強いせず、一人ひとりに合わせたケアに努め笑顔をつないでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月一回の絵手紙など利用者様に楽しんで頂いています。ホームで行う季節の行事や秋祭りで地域の方々の踊りや歌を披露して頂き、地域での行事にも参加しています。	町内会に加入し地域の避難訓練等に参加している。散歩の際に近所の庭の花を見に行ったり、農家から野菜の差し入れがある。今年4月以降、新型コロナの影響で、ボランティアの来訪は中止している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方や企業の方に向けて認知症への理解を深めてもらう為、認知症キャラバンメイトとして数名登録しており、活動に参加しています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回スタッフも参加し現状の様子を報告し参加されている方々のご意見を伺いそれを踏まえサービス向上に努めています。	地域包括職員、行政区長、民児委員、家族代表、入居者代表の構成で、偶数月に開催している。4月以降は町の助言で会議を開かず、各委員に入居者の状況や行事などの資料を届けている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎回、運営推進会議に町の担当者に参加して頂きホームの現状をお伝えし、助言、指導を頂いています。	地域包括職員は運営推進会議に毎回出席している。情報交換や助言を得ている。町外の入居希望者の件を相談した。町主催のグループホーム連絡会や研修会に職員が出席し交流している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一人で外に行きたがる方もおり安全に行けるよう配慮しています。鍵は日中掛けず両棟見守りで行き来できる環境に努めています。	身体拘束適正化委員会を3か月に1回開催し、身体拘束防止について検討している。内部研修は身体拘束ゼロの手引きを使用して年2回行っている。今年の6月以降新型コロナの影響で委員会の開催を中断している。	新型コロナウイルス感染防止対策等に追われて大変な時期ではあるが、身体拘束適正化委員会を再開し、身体拘束防止について継続して対処していただきたい。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	GH全体ミーティングで虐待研修で学んだ事を発表し全員で確認している。会社全体で虐待委員会を設け話し合いをしている。スタッフ一人一人が声掛けなども注意して接するように心がけています。	3か月に1回身体拘束適正化委員会で虐待について話し合っている。全体ミーティングで虐待について勉強するなど、風通しの良い職場、職員同士の声掛けに努めている。強い口調の時は周りの職員が注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在、必要な方はいませんが、権利擁護について学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時点で説明を行い、契約を交わしています。改定がある場合には、家族会会議開催時や必要に応じて説明をし、了承を得た上で行っています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が来訪時に出た意見はすぐミーティング時に検討実行に努めます。家族会議開催時ご家族だけで要望等出してもらう話し合いの場を設けています。	年1回開催していた総会は今年は開催していない。家族との連絡は電話やメールなどで行っている。ホームの行事や入居者の写真等法人の便りで届けている。家族から安心してお任せしていますとの声が多い。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ間での情報を申し送りノート等を用いて行っており、意見、要望をGH全体ミーティングや主任会議に出し検討の上実施しています。	月1回の全体会で意見を出し合っている。職員提案のスポーツ大会でアイデアを出し、紙玉入れやペットボトルボーリング等を楽しんだ。社長との面談で要望の多かった夜勤手当や年末年始手当が上がった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社員・パート別又は家族環境や個別の体調を考慮し勤務時間収入の調整をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社員がそれぞれ各自学びたい研修に参加し受けています。毎月一回会社全体で講師の方をお呼びし研修を受けています。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者主催の勉強会に参加し認知症への理解と対応について交流も図りつつ学んでいます。	郡内の福祉事業者や医療事業関係者、消防署を対象とした多職種連絡会に職員が出席した。被介護者を設定し、支援の内容を検討発表し、いろんな意見が聞けた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様とご家族様との面談や聞き取りにて生活歴や現在の心身状況を把握し、気持ちに寄り添い信頼を気付けるように努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族関係にも配慮し、個々の気持ちを受け止められるよう率直に何でも話していただける場の雰囲気づくりを心掛けるよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	スタッフで必要な遠慮をアセスメントを基に検討しながら支援計画を作成し支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ゴミ集めや洗濯物干し、たたみ、おぼん拭き等、利用者様にもお手伝いして頂いています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の方にも往診、通院時立ち会って頂き、先生と面談し、ホームと共にサポートして頂ける様協力体制を築いております。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の法要、外出やご家族との食事等に出かけております。外出が困難になってきたご利用者様には、ご家族の方などに訪問して頂いております。	元同業者や茶道の弟子、家族の面会がある。家族と外泊や米寿の祝いで温泉へ出かける方がいた。墓参りに職員が同行している。スーパーの買い物など外出行事はコロナ禍で、今は出来ていない。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの心身状況を常に見極め、利用者様が互い助け合えるような座席を考えております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院による退所の方にお見舞いに行き、経過を見ながら次の生活の場の相談にのっています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のミーティングでご本人様、ご家族様の話に耳を傾け、希望に添えるよう話し合っています。又困難な場合相手の立場になり考え対応するようにしています。	日常の会話で昔食べた「さっぽろ一番味噌ラーメン」が食べたいことを聞き、みんなでラーメンパーティをした。意思把握困難な方がクリームパンを見ると笑顔がすごく良いので食べたいことを知り皆で食べた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様の様々な状態をスタッフ全員が把握しケアマネと連携しミーティング等にて再確認しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録や申し送り等をミーティングで把握し、その都度対応を検討しています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の状況や想いを毎日のミーティングで確認しご家族様の意見も尊重し、スタッフ全員で介護計画を作成しています。	気づきや状態を記録や毎月の全体会での意見や担当者の意見を聞き、6か月ごとにモニタリングし計画を見直している。退院後の座位の確保が難しくなった入居者の、車いす対応を計画書に入れた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、生活チェック表、生活の様子、排便チェック表を記入し毎日のミニミーティングで情報を共有したり検討しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	好き嫌いのあるご利用者様には別メニューにて対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	レクリエーション等も地域のボランティア様のご協力を頂き楽しんでおります。毎月1回の絵手紙を皆さん楽しみにしています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、各ご利用者様ご家族様の希望でかかりつけ医は決めて頂いております。通院、往診にも可能な限り同席して頂くようにしています。	かかりつけ医への通院は家族が同行であるが、不都合の時は職員が同行している。協力医の往診が月2回有る。夜間や休日、緊急時は救急医療を利用している。搬送前に主治医の指示や看護師の意見を聞いている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ミーティングや申し送りファイルで常にケアマネと情報共有しております。ご家族様にも必要時夜間帯でも携帯で急変対応できるよう状態をとり連絡しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	診療情報等で適切な支援が行えるように、入退院時はケアマネ・管理者・看護師・主任等が同行し、担当医、看護師との面談に同席しています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者様の心身状況に応じて担当医、ご家族様、ホーム側と話し合いの場を設け、看護について方針に沿ってチーム全体で確認しながら支援を行っています。	入居時に「医療連携体制及びターミナル(看取り)に関する同意書」を説明し同意を得ている。状態の変化に際し医師、家族、ホームで話し合いを持っている。看取りの体制はあるが家族は入院を希望する方が多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当については消防署員による研修会を行っており、事故発生についてはヒヤリハットの事例から再発防止について全員で確認しています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜中を想定した避難訓練を年2回実施しております。また、地域との連携についてはその都度確認し、実施しております。	年2回夜間想定避難訓練を実施している。災害マニュアルを作成し、災害に対応できるよう訓練している。昨年台風19号では指定避難所へ全員避難した。近所の住民が誘導・見守りをしてくれた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の気持ちに配慮した声掛けに努めております。会話等で命令口調、指示的な声掛けにならないよう話し方にも配慮しています。	呼び方はさん付けだが、○○ちゃんと呼ぶ方もいる。入居者の思いを尊重している。衣類が汚染した時は本人のプライドに気を付けて声掛けに注意し失礼の無いようにしている。排泄の際は「トイレ」の言葉は避けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様ご自身が選択できるように決定的に話すのではなく、いくつかの選択肢を用いるように心掛け対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の体調やペースを考慮し皆同じようにはなく個々に合わせた過ごしやすい環境づくりに努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際などはご本人様に洋服等を選んでいただき、整容に気を配り髪をセットしたり、おしゃれを楽しんでもらえるよう努めております。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の会話で食べたい物をお聞きしメニューに取り入れ家庭的な食材で手作りしています。また行事等には季節に合ったメニューにしています。下膳、テーブル、おほん拭き等、一人一人が出来ることをお手伝いして頂いています。	食材は近隣の商店が届けている。何が食べたいか入居者に聞いて、お好み焼きやピザなどを提供している。敬老会には刺身が出され、誕生日にはプリンやクリームソーダが好まれる。食前に口腔体操をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分はこまめに摂取して頂き、脱水にならないよう配慮しています。体調・病歴を考慮しメニュー形態・量に気を付け提供しています。また、水分量は排泄状況等から検討しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後に義歯使用の方は薬剤洗浄管理をしています。ご利用者様に応じた口腔ケアを毎食後に行っています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁を出来るだけ減らせるように時間でトイレ誘導しています。夜間はトイレや居室に設置したポータブルを使用しています。	食前には全員に声がけしている。自分でトイレに行けない方にはパターンを把握して早めの誘導をしている。立ち上がった時動作が落ち着きがなくなった時はすぐに誘導している。夜間はパッドを利用している方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品を取り入れたり、ホールや外と一緒に散歩したり、運動をしています。排便チェック表に毎日記入し、排便状況を確認し、排便の悪い方には、病院から処方された薬を飲んでいきます。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	3日に1回を目安に入浴しています。体調不良時は避けています。拒否がある際は時間をずらして再度声掛けしたり、翌日に入ってもらったりしています。	3日に1回午後が入浴のペースになっている。拒否の強い方には好きな歌を歌ってもらうなど、気持ちを和らげて脱衣、入浴してもらっている。足元の弱い方に注意を払い、注意して転倒を予防している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的にリネン交換し、汚染時は速やかに対応し、安眠できるよう心掛けています。また、温度管理にも気を付けています。眠れない方には会話したり、その人のペースに合わせ消灯時間を決めずに就寝して頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	情報を個人ファイルにて共有し薬の変更があればだれが見てもわかるよう申し送り確認します。その後の経過にも注意しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	天気の良い日は外で日光浴しながらティータイムを楽しんでいます。出来る方には洗濯たたみや食後のテーブルおぼん拭き等、手伝って頂いています。毎月絵手紙や外出を行っています。ボランティアさん協力のもと唄や踊りを楽しんで頂く機会を設けています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節によってスタッフが内容を考えお花見に施設全体で出かけたりしています。または、ご家族と外出・外食される方もいらっしゃいます。天気の良い日は近くをスタッフと散歩しています。	コロナ禍で外出行事や四季折々の行楽は中止している。天気の良い日などはホーム周辺の水田や草花を見ながら散歩している。歩行困難な方の車いすを他の入居者が押し、職員が見守り散歩している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	会社でお金は管理していますが、外出時に欲しい物がある場合には選んで購入して頂きます。会社で一時立て替え、ご家族様に後日請求になります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	親族、知人の方から手紙等来た際にはお返事を出すお手伝いをしたりしています。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレは3か所あり、トイレの場所がわかりやすいように大きく表記し見やすい位置に貼っております。毎日居心地がよくなるような空間で快適な生活を過ごして頂くようホール、玄関などに季節感など感じられるよう工夫している。	ホールは明るく広い。季節を感じる紅葉や柿の折り紙、十五夜の貼り絵が飾ってある。床やドアノブは消毒され空調、湿度、換気がなされている。入居者は職員の穏やかな声かけで安心した生活を送っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スタッフと一緒に隣の棟へ行き、ご利用者様同士会話を楽しんで頂いたり、ホールにソファを置き、自由に誰とでも談話できるようにしています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごして頂けるよう、これまでの生活で馴染みのあるものを使用し生活変化を感じにくいよう工夫をしています。	居室は備え付けのベッドやエアコン、クローゼットの他に使い慣れた筆筒やテレビを置いている。知人や家族の写真、ドライフラワーなどを飾っている。読書や新聞を読んだり、それぞれに過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人で自由に行けるように居室、トイレ、お風呂、風呂場などのスペースに一目で分かるように名前等を貼っています。移動スペースには物を置かないようにし、転倒防止に努めています。		